

矢部貞治 （次） 政治學者、政治學博士。明治二十五年十一月九日鳥取縣生れ、昭和四十二年五月七日歿（九〇二一六七）。大正十五年東京帝國大學法學部政治學科卒。歐米留學後、昭和十四年同大教授。近衛文麿の顧問として大政翼賛運動の原案を執筆した他、昭和研究会などでも活動。終戦後東京帝大を辭任、二十年拓殖大學總長、翌年憲法調査會副會長となり憲法改正を主張。『矢部貞治日記』全四卷（昭和四十九年—五十年刊）がある。

譯者書目、オットー・ケルロイター著「ナチス・ドイツ憲法論」（田川博）兵譯、昭和十四年五月十日岩波書店）、『現代學生は何を爲すべきか』（合著・室伏高信編、昭和十五年二月）千日回谷書房）、『新秩序の研究』（昭和二十年四月）千日弘文堂書房）、『デモクラシーとは？』（昭和二十一年一月五日日本放送出版協會「ラジオ・パンフレット」）、『民主主義と天皇制』（昭和二十一年四月十五日協同出版社）、『政治學』（昭和二十四年十月十日勁草書房「勁草全書」）、『日本國憲法に關する考察』（昭和二十九年八月五日印刷・改進黨憲法調査會「憲法調査資料」）、『憲法改正是非の』（合著・毎日新聞社論説要編、昭和二十一年四月）千日毎日新聞社）、『近衛文麿』（昭和二十二年六月）日時事通信社「三代宰相列伝」）、『小野塚喜平次一人と業績』（南原繁・蠟山政道共著、昭和二十八年十月）千五百岩波書店）、『日本の遺跡』（昭和四十二年四月）千日鹿島研究所出版会）等。